

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立佐志中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン等の端末の利用時間が多いのに対し、家庭学習の時間が極端に少ない傾向にある。学習に対する姿勢にも差が見られ、学力が二極化している。希望する進路の実現に向けて学力はもとより、生活習慣の見直しやセルフコントロール力を高める指導が必要である。</li> <li>文部科学省の道徳教育研究指定を受けるにあたり、これまで本校で取り組んできた人権・同和教育との関連を図り、カリキュラムや教材の確立、地域人材の発掘や地域との交流を進めていかなければならない。本年度までの学校教育目標や校内研究をベースとしつつ、新たな実践や研究を行い、生徒の資質向上と職員のスキルアップを図っていく。</li> <li>本校は時間外在校時間等はそれほど多い数字ではないが、できるだけ業務を効率化したり、協働化したりし、個々の負担感を軽減していく必要がある。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	<p>生徒が主役の学校 ～しなやかに 自分らしく～</p>
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人権・同和教育(◇仲間づくりの拡充 ◇生徒の人権意識の高揚 ◇進路・学力保障 ◇職員研修・授業実践)</li> <li>2 道徳教育(◇道徳科の授業の工夫 ◇地域・家庭・生徒の実態に合った教材づくり ◇学校教育活動全体と道徳教育の有機的な関りの整理)</li> <li>3 生徒指導(◇教育相談への組織的アプローチ ◇多様な支援方法により、不登校生徒の個に応じた進路実現 ◇いじめ認知漏れゼロ)</li> <li>4 働き方改革/人材育成(◇子育て・介護中も働くことができる環境整備 ◇タイムマネジメントとBirthday年休・Happy Wednesdayの推進 ◇研修の受講等による専門分野のアップデート ◇キャリアプランを踏まえたOJTの充実)</li> </ol>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の主体性・協働性の向上	○振り返りにおいて、生徒の主体性・協働性に対する項目の肯定的評価85%以上	・各教科の授業において、ペア活動やグループ活動の取り入れ ・各教科で授業の振り返りを実施し、学習に対する主体性の向上の働きかけ	A	・ペア学習やグループ学習に積極的に取り組み、振り返りなどを通して積極的に学び、みんなと協力して学習を行っている ・肯定的に回答した生徒は99%だった。学力の向上につながると見られ、引き続き取り組む。	A	・ペア学習やグループ学習に積極的に取り組み、振り返りなどを通して積極的に学び、みんなと協力して学習を行っている ・肯定的に回答した生徒は98%だった。今後は、グループ活動の形や方法を検討するなど、活動の内容を見直し充実させ、学力向上に取り組む。	A	・しっかり「話せる」ことが基本。そのうえで表現力を向上させてほしい。 ・自分が好きなこと、趣味から自らの学びにつながればよい。	学力向上コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の取り組みについてのアンケートで肯定的な回答の生徒と保護者の割合を90%以上	・職員による全校生徒対象の人権講話の実施 ・地域と連携した道徳教育推進 ・校内研究とタイアップした道徳教育の実践	B	・道徳の授業を通して、命を大事にする心、思いやり、正義感、感動する心などが身につけていると肯定的に回答した生徒は98%、保護者は87%だった。校内研究を通して、さらに豊かな心を育てるよう取り組む。	A	・道徳の授業を通して、命を大事にする心、思いやり、正義感、感動する心などが身につけていると肯定的に回答した生徒は98%、保護者は85%だった。生徒達の意識の高まりは十分達成できた。今後は、授業や生徒の活動をホームページ等で紹介し、保護者への周知を図りたい。	A	・授業や道徳教育は行ったが、生徒の実際はどうなっているか。授業や学校以外の場所での生徒の言動に注目したい。 ・人権・同和教育について、理念を大事にしつつ、地域や生徒の現状を見ながら進めてほしい。	人権・同和教育担当 生徒支援教員 道徳推進教員
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートで、学校の取組みに肯定的な回答をした生徒・保護者の割合をそれぞれ70%以上。	・毎月末に「こころのアンケート」を全校生徒を対象に実施 ・生徒指導部会(週1回)と生徒指導協議会(月1回)を通し、全職員で生徒に関する情報共有と対応の検討	A	・学校は生活アンケートや様々な取組を通して、いじめの早期発見、早期対応を行っている ・肯定的に回答した生徒93%、保護者は89%だった。職員間の連携を進め、引き続き取り組む。	A	・学校は生活アンケートや様々な取組を通して、いじめの早期発見、早期対応を行っている ・肯定的に回答した生徒95%、保護者は90%だった。 ・生徒指導部会や生徒指導協議会での情報共有や対応の検討を通して組織的に問題行動へ対応することができた。	A	・人間関係のトラブル、対応の難しさを感じる。特に生徒が自分たちの力で問題を解決する能力が低下しているように感じる。様々な経験を積みませ、生徒の心の育成につなげてほしい。	生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒65%以上	・職業調べやキャリアプランの構築に役立つガイドブック等の授業での活用。 ・各種行事での生徒の出番を増やし、自浄作用の支援	B	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うと肯定的に回答した生徒は97%だった。生徒を個々にみる意識や生徒の個性・特性を生かした指導を今後も継続する。 ・将来の夢や希望を持っていると肯定的に回答した生徒は64%だった。自己評価を高められるような指導に取り組む。	A	・2学期末の意識調査で、「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標がある」に対し、「いずれも」当てはまる」と回答した生徒が1学期末と比べ増加した。特に、2,3年生で大きく増加される。職場体験や高校説明会、進路指導を通して増加したと考えられる。しかし、肯定的回答全体の割合は変わらなかった。来年度は自己評価が低い、または将来についての夢や希望を語れない生徒に対して特に支援が必要である。	B	・将来の夢を具体的に決めることはできなくとも、自分の個性や長所を自覚して、将来の夢の方向性を持つようになってほしい。	進路指導主事 キャリア教育(総合学習)担当
●健康・体づくり	○生徒が学校の主役になれる取り組み	○「学校には自分の居場所・活躍する場面・力を発揮する場面がある」と回答する生徒75%以上	・各行事等について、事前の活動や当日の役割を生徒が担うようにする。 ・実践後、生徒と振り返りを行い、良かった点を褒めながら次回にフィードバックする。	A	・学校には自分の居場所や活躍する場面があると肯定的に回答した生徒は89%だった。学校教育目標を意識した取り組みを今後も続ける。	A	・学校には自分の居場所や活躍する場面があると肯定的に回答した生徒は90%だった。 ・行事を通して、多くの生徒が活躍の場を得て、積極的に活動することができた。 ・行事後のアンケートの視覚化により個々の良さを認め合うことができた。	A	・卒業式において、司会進行やマイク移動に係など、生徒が活躍する場面を設定することは大いに賛成。	学年主任・生徒会担当
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食を定着させる生徒95%以上	・健康に良い食事について、保健だよりや給食時間の放送を通して引き続き啓発を行う。 ・食育週間等に生徒に対して朝食に関するアンケート等を取り、結果を分析して生徒に知らせること、現状への理解とより良い食習慣への意識を育てる。	C	・健康に良い食事をしている肯定的に回答した生徒は88%であったが、朝食を毎日食べる生徒は62%にとどまった。食べない日もあると回答した生徒は19%、(ほとんど)食べないと回答した生徒が8%いた。食の大切さを伝える場面を設定する必要がある。	B	・健康に良い食事をしている肯定的に回答した生徒は90%であった。6時点は朝食を毎日食べる生徒は60%にとどまっていたが、11月実施のアンケート(2年生対象)では91%であった。 ・委員会活動による給食時の放送により食に対する知識を深めることができた。今後も取り組みを継続する必要がある。	B	・食育を行って、生徒自身がどのような感想を持っているのかが気になる。知れた知識を実際の生活に生かしてほしい。 ・体は食べるものでできている。継続して食育を行うことが大事である。	保健主事 食育担当 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・働き方改革の実践事例等を職員会議等で情報共有し、効率の良い働き方を意識することについて啓発していく。 ・誕生日および学期に1日はリフレッシュのための年次休暇を取得する。	B	・4月～11月で時間外在校等時間の上限を守れたのは、のべ人数の集計で65%だった。業務の効率化や連携によって負担を減らすことはもちろんだが、何より職員自身の意識を変える必要がある。 ・年次休暇の取得は進んでおり、教育課程の効果的な運用で研修時間、事務や教材研究の時間の確保ができた。	A	・4月～11月で時間外在校等時間の上限を守れたのは、のべ人数の集計で71%だった。冬季になり生徒の下校時刻が早くなったことで、少し改善が見られた。 ・R71月～12月間で14日以上年次休暇を取得した職員は3人だったが、職員間では計画的な取得に対する理解があり、効果的に休暇を取り、心身のリフレッシュに役立っている。	A	・部活動の外部コーチ導入や地域移行について、先生方の負担を軽減するために進めてほしいが、人材や受け皿となる施設等が乏しいことに課題を感じる ・以前に比べれば職員室の電気は早く消えているようだが、それでも先生方には無理をしてほしくない。	校長・教頭・指導教諭
	○協働性を重視した職場の構築	○学年や校務分掌の連携がとれており、協働が進んでいると答える職員80%	・担当者任せにせず、全職員で学年・学校経営を行う組織づくり ・部活動複数顧問制度の活用	C	・職員の連携がとれており、グループワークが進んでいると肯定的に回答した職員は71%だった。連絡や報告が滞ったために業務に支障が出たこともあった。主任を通し、意識の向上に努める。	B	・職員の連携がとれており、グループワークが進んでいると肯定的に回答した職員は73%だった。校務分掌の偏りに課題が見られ、管理職への報告をすべき事案と、個々で採配する事案の判断の具体を的確に伝達する必要がある。	B	・学校行事等からは先生方が協力して仕事をしていることがよく伝わった。当事者同士しかわからない点もあると思うが、情報を共有しながら仕事を行ってほしい。	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○研修後、特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員50%以上(11月研修)	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	B	・特別支援教育の研修を行い、理解が進んだと回答した職員は93%だった。引き続き取り組みを継続する。	A	・毎月1回は各クラスを巡回し、生徒の行動観察を行い、職員で情報を共有した。また、UDの視点から気になることを補修するなど、教室環境の合理的配慮にも気を配ることができた。 ・毎月の関係機関からの情報・指導をうけ、特別支援学級の生徒の生活の支援につなげることができた。	A	・自閉症・情緒などの特性を持つ生徒について、関係者の情報共有を大事にしてほしい。	特別支援教育 コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育相談・不登校対策	○担任・副担任と教育相談担当との情報共有	○不登校・不登校傾向、別室登校の生徒・保護者が、1人以上の教職員と良好な関係づくりを目指し、関係機関と連携を図る。	・不登校・不登校傾向、別室登校の生徒が教室に入りやすいような学級や学年の雰囲気づくりを進める。 ・生徒の本音を引き出すカウンセリング法の研修	B	・不登校・不登校傾向、別室登校の生徒を合わせると全校生徒の13%となり、かなり高い数字となっている。教育相談や個別の対応はもちろん、生徒への人間関係に関するスキルトレーニング、周りに寛容な生徒集団作り等が必要である。 ・完全不登校生徒のうち、2名が改善した。別室登校の生徒は増えたが、体制を整え、全職員で対応できるようにした。	B	・不登校・不登校傾向、別室登校の生徒を合わせると全校生徒の9.6%となり、以前よりも改善した。別室登校の生徒も1名が改善した。しかし、完全不登校生徒への手立てがなかなか取りづらいため、体制の整え方が課題である。 ・生徒への人間関係に関するスキルトレーニングや、周りに寛容な集団作りを引き続き行っていく。	B	・生徒と教員のより良い関係づくりを進めてほしい。 ・生徒だけでなく、保護者とも連絡を取り合う必要があるため、先生方も大変だと思う。とても大きな課題ではあるが、頑張ってもらいたい。	教育相談担当
○人材育成	○新たな知識やスキルの獲得と年齢や教職経験に応じたキャリアプランの構築	○「今年度の勤務や研修等で新たな知識やスキルが身につく、自身をアップデートできた」と回答する職員80%以上	・若手のみならず、年齢や教職経験に応じたOJTを行う。 ・期首面談で今年度にアップデートしたいことを設定し、中間、期末面談で評価する。	A	・自身をアップデートできた肯定的に回答した職員は93%だった。職員個人のアップデートに関する意識はかなり高い。それぞれの校務に応じた知識やスキルの獲得を推進する。	A	・自身をアップデートできた肯定的に回答した職員は95%だった。来年度の校務分掌を見越し、必要に応じた知識やスキルの獲得を推進する。これまでに経験のない分掌にもチャレンジさせる。	A	・教育を行う専門家として、よいものを取り入れたり、実践を積み重ねて、子どもたちの教育にフィードバックさせることを意識するのは素晴らしい。	校長・教頭・指導教諭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進のため、授業のみならず、学校行事や生徒会行事等を道徳教育と有機的に結び付け、学校教育全体で生徒の道徳性が高まるよう実践を行う。</li> <li>・不登校や別室登校の割合が高く、本校の大きな課題となっている。教育相談の体制・環境づくりについて研修・研鑽を行い、生徒一人一人が存在感を示すことができる学校づくりを目指す。</li> <li>・職員間の情報交換を密に行い、職員の個々の長所を生かしつつ、全体として統一感のある指導体制を目指す。</li> </ul>
----------------	--